

J1AA通信

2008年7月19日(土)発行



国際的な建築団体から重要建築に選定された検見川送信所

検見川送信所が重要建築に

もう、ただの廃虚ではない

国際組織ドコモモジャパンが選定

20世紀の重要なモダニズム建築物の調査や保存を提言する国際的組織DOCCOMOMOの日本支部、DOCCOMOMO Japan（ドコモモ・ジャパン）が、このたび検見川送信所

「知る会」の活動にエール

を重要モダニズム選定建築に加えました。吉田鉄郎の設計による建築として既に東京中央郵便局、大阪中央郵便局などが選ばれていますが、その用途を終え、廃虚化している建築物が対象となるのは異例です。DOCCOMOMO（モダン・ムーブメント）にかかわる建物と環境形成の記録・調査および保存のための国際組織）は1988年に設立した国際的な建築団体。その日本支部であるDOCCOMOMO Japan（代表：鈴木博之東京大学大学院教授）は2000年の設立以来、価値の高いモダニズム建築を選定してお

り、2003年9月にDOCCOMOMO 100選を発表しましたが、その後も毎年、選定数を増やしています。検見川送信所を含む07年

選定は、事前のDOCCOMOMO会員による推薦に基づくユア・メンバーによる非公開討議が繰り返される、地域、建物用途、設計者が偏らないよう慎重に進

められたとのこと。検見川送信所の場合、特に無線送信所」という近代的なビルディングタイプ（用途）の建物としての稀少性が評価されたものと思われる。こうして選定は公正かつ慎重になされましたが、この選定にあたっては、DOCCOMOMO会員でもある「知る会」の菊地潤氏の尽力があったことを挙げておきます。また、京都

イベント緊急決定

8月30日(土)午後3時、検見川公民館で

詳細はホームページで

「検見川送信所を知る会」の第3回イベントが日程と場所が決まりました。詳細については、決まり次第、当ホームページなどでお知らせいたします。みなさんのご参加をお待ちします。

日程：8月30日(土)午後3時

場所：検見川公民館 千葉市花見川区検見川町3丁目322番地の25
JR総武線 新検見川駅 下車、京成千葉線 検見川駅下車 徒歩10分
参加費：無料(カンバ

を願っています)

発行元：検見川送信所を知る会

代表：仲佐秀雄

〒262-10026
千葉市花見川区瑞穂2-1-11-20-908
TEL&FAX: 043(276)0444
<http://kemisawaradio.web.fc2.com/>
メール: kemisawamusen@mail.goo.ne.jp

検見川送信所の設計者 吉田鉄郎氏、再評価高まる

近代建築の原点 シンポジウム

検見川送信所の設計者である吉田鉄郎氏をテーマにしたシンポジウム「日本における近代建築の原点—吉田鉄郎の作品を通して—」が6月30日(月)、東京都港区芝の建築会館ホールで行われました。吉田氏の代表作である東京中央郵便局をめぐっては38階建てにする計画が6月25日に発表されたばかりとあって、2000人近くが参加しました。

主催者側の快諾をいただき、参加者全員に配布されるパンフレットに「検見川送信所を知る会」の活動を記したA4版(両面)のフライヤー(チラシ)を挟み込んでいただきました。会では吉田氏の故郷である富山テレビが制作したドキュメンタリー「平凡なるものゝ建築家 吉田鉄郎物語」(5月19日、同局で放送)が上映。続くシンポジウムでは芝浦工大の南一誠教授が司会



東京中郵取り壊しに反対の声

鈴木教授が東京駅周辺をめぐる建物事情について「首都の顔であるターミナル」が登壇。東京大学の鈴木博之教授、「東京中央郵便局を重要文化財にする会」の兼松統一



検見川送信所を知る会ホームページ

検見川送信所

所在地は千葉市花見川区検見川町5の20069。東京中央郵便局や大阪中央郵便局を手がけた建築家・吉田鉄郎氏が設計した大正末期の貴重なコンクリート建築。い

1930年初の国際放送

で、印象に残る外観になっています。1926年大正15年(竣工)。コールサインは日本第1号と表す「J1A A」。1930年(昭和5年)10月27日にはロンドン海軍軍縮会議の締結を記念した浜口雄幸首相の演説を采英に届けました。これが日本初の国際放送となりました。戦後も通信技術の向上に

ル駅がこれだけ

激変している例は諸外国を見渡してもない」と指摘。兼松氏は「建て替え案発表には既成事実を作ってしまったという郵政側の意図を感じる。なく

れなら壊した方がいくらいだ」と批判しました。

検見川送信所には具体的な取り壊し計画は発表されていませんが、依然として保存、利活用の道筋は出ていません。「検見川送信所を知る会」としては東京中郵の動きにも注目していきたいと思えます。

「知る会」に参加ください

「検見川送信所を知る会」は検見川送信所の歴史的、建築史的な意味を学び、保存、活用の可能性について考える人たちの集まりです。皆さんの積極的な参加と、ご提案をお待ちしています。また、広報イベント企画・会計等のワー

クを担ってくださる方、カンパも随時募集しています。入会ご希望の方はホームページなどで受け付けています。会費は無料。会員数が多いことは、良い意味で大きな影響力を発揮します。ぜひ皆さんのご入会をお待ちしています。

風景印はご存じ?



河童画人として知られる画家・牛政ひろし氏の息子からこんなハガキを寄贈していただきました。写真は「風景印」というものが押されています。この図柄は検見川送信所と当時の京華間の海水浴場がモチーフになっているようです。